

ゴミをへらす

じゅんがんだしやかい
循環型社会

このページではゴミをへらし、限りある資源をくり返し利用する循環型社会のすがたと、その社会をつくるために商社が取り組んでいる活動を学びます。

じゅんがんだしやかい
循環型社会を歩く



商社の取り組み 循環型社会を実現(じつげん)するために

○ 金属(アルミ)のリサイクル

私たちの身のまわりのいろいろなものに使われている[アルミニウム](#)。さびにくく、少ないエネルギーで再生できるため、金属の中でも[リサイクル](#)にとっても適(てき)しています。また再生アルミは、新品のアルミとほとんど品質(ひんしつ)が変わらないというすぐれた特徴(とくちょう)があります。商社では、アルミ缶やその他のアルミ製品を[リサイクル](#)する[アルミ再生地金](#)(さいせいじがね)の製造に取り組む、資源の有効利用(ゆうこうりよう)に貢献(こうけん)しています。



新幹線のぞみはアルミでできている!

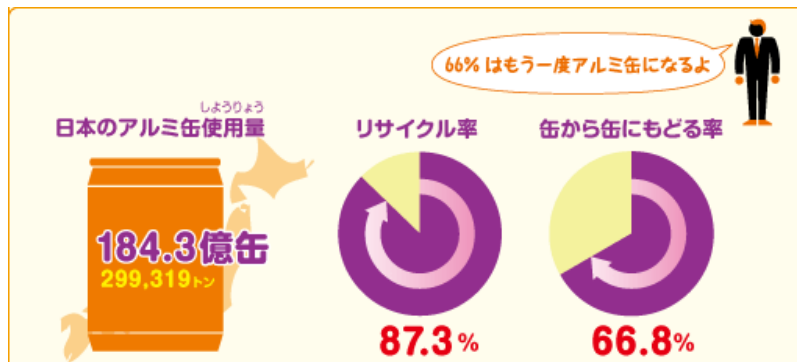
[アルミニウム](#)は、軽くて、さびにくい、加工しやすいなど、すぐれた特徴(とくちょう)をもった金属です。また、[マグネシウム](#)や銅などの他の金属を混ぜたアルミ合金(ごうきん)にすると非常に強くなります。アルミは、1円玉から、台所で使用するアルミ箔(はく)、自動車のパーツ、窓ガラスのサッシなど、さまざまな用途に使用されています。大きなものでは新幹線。なんと「のぞみ」はアルミ合金でつくられています。時速270Kmという高速で走るためには、軽くて強いアルミ合金でつくられたボディが最適(さいてき)なのです。

リサイクルが簡単(かんたん)な、地球にやさしい金属

[アルミニウム](#)が[リサイクル](#)に最適(さいてき)とされる大きな理由は、少ないエネルギーで簡単(かんたん)に再生できるところです。低い温度で溶(と)かすことができ、新品をつくるときの約30分の1のエネルギーで再生できます。代表的(だいひょうてき)な例がジュースなどのアルミ缶で、日本では87.3%※が[リサイクル](#)されています。みなさんが飲んだジュースの空き缶が、学校の窓ガラスのサッシになっているかもしれません。

※出典：平成20年度アルミ缶[リサイクル](#)率 アルミ缶[リサイクル](#)協会

■日本のアルミ缶のリサイクル状況(じょうきょう)(平成20年度)



(クリックで大きくなります)

※出典：アルミ缶リサイクル協会

商社が行っている「金属（アルミ）のリサイクル」

私たちの社会のさまざまなところに使われている [アルミニウム](#)。それだけに商社が行うアルミの [リサイクル](#) もいろいろです。商社は、アルミ缶はもちろん、アルミサッシ、新聞などの印刷（いんさつ）に使われるアルミ版（はん）、使用済み自動車から出たアルミ部品など、さまざまなアルミ製品から、アルミを溶（と）かしてかためた [アルミ再生地金](#)（さいせいじがね）をつくり出す事業（じぎょう）を世界中で行っています。そのほかにも自動車メーカーなどで部品がつくられた時に出るアルミくずを集め、簡単（かんたん）に再利用してもらえよう、アルミを溶かした状態（じょうたい）のまま特殊（とくしゆ）な容器（ようき）につめて提供（ていきょう）する、アルミ溶湯（ようとう）という事業なども行っています。

商社のさまざまなアルミ [リサイクル](#) 事業によって、貴重（きちょう）な金属資源の一つであるアルミの安定した供給（きょうきゅう）が実現（じつげん）しています。



[リサイクル](#)されるアルミ缶



アルミの溶湯（ようとう）設備

▲ページの先頭へ